アーツ前橋展覧会

来場者数1万人を達成

問 アーツ前橋　TEL027-230-1144

9月20日～12月21日に市立の美術館・アーツ前橋で開催した展覧会「ゴースト　見えないものが見えるとき」が12月13日に来場者数1万人を達成。来場記念セレモニーを実施し、1万人目の来場者・橋本さん（茨城県古河市）へ記念品を贈呈しました。

橋本さん（写真左）

別の美術館で本展のポスターを見て初めて来場しました。初来場が1万人目の来場者となり驚きましたがうれしいです。作品はさまざまなものが展示され、インパクトがあり高揚感に包まれました。

出原館長（写真右）

本展はサブカルチャーやVR、AI作品、海外を含む有名作家などの作品を展示。目標である1万人を達成できたのは、「ゴースト＝怖い」だけではなく、さまざまな視点の作品を展示することで、たくさんの人に面白いと来場してもらえたのではないかと思っています。アンケートでの来場者の声を、今後の展覧会に生かしていきたいです。

ふるさと納税で

民間主導のまちづくりへ寄付を

問 寄付については広報ブランド戦略課　TEL027-898-6641
事業内容については市街地整備課　TEL027-898-6946

中心市街地の価値向上を目指し、民間主導のまちづくりを推進するため設立した「前橋市アーバンデザインファンド」。本ファンドは、クラウドファンディング型ふるさと納税を通じて寄付を積み立て、本市で芽吹きつつある中心市街地でのまちづくり事業をする民間団体などの活動を支援します。

時 2月28日㈯まで

前橋国際芸術祭に向けて

準備の過程を市民と共有

問 前橋国際芸術祭事務局　TEL027-212-2117

9月から約80日間、本市のまちなかで開催する「前橋国際芸術祭」に向けて、毎月「めぶく。カンファレンス」を実施しています。ここでは、参加アーティストによるプロジェクトの共有や企画の検討、実施に向けた課題などを話し合い、本芸術祭が形になるまでの過程を市民へ届けています。

時 1月24日㈯19時
場 本屋「水紋」2階（千代田町二丁目）
対 芸術祭の内容を知りたい人、まちづくりに関心のある人
申 当日会場へ直接

冬季展覧会

向井山朋子 Act of Fire

問 アーツ前橋　TEL027-230-1144

市立の美術館・アーツ前橋で展覧会「向井山朋子 Act of Fire」を開催。向井山さんは音楽や映像、パフォーマンス、インスタレーションなど多領域をまたぐ越境的な表現者として知られています。その活動は一貫して、アート表現の拡張とタブーへの挑戦。観る人や体験する人に深い内省や感情の揺らぎをもたらす作品を発表し続けています。

美術館で初の大規模個展となる本展は、6つのギャラリーを地下劇場に見立てた回廊型インスタレーション。シルクドレスの迷宮《wasted》（平成21年）、3.11の津波で破壊されたグランドピアノを用いた《nocturne》（平成23年）、映像詩《ここから》（令和7年）など、新旧のアートワークが再構築されます。

タイトルの「Act of Fire」は、向井山さんの喪失や抵抗、怒りを燃焼させる儀礼的な空間を意味します。また、ジェンダー不平等や激甚化する自然災害、終わりなき侵略など現実世界の問題を、「火」という根源的なメディアによって照らし出していく行為を示唆しています。回廊に映し出されるイメージは、観る人の記憶を呼び覚まし、「私」と「世界」との関係性を問う思索の旅へと誘うでしょう。

時 1月24日㈯～3月22日㈰
¥ 一般1,000円、学生・65歳以上・団体（10人以上）800円、高校生以下は無料

Vol.1

街づくりとアート

市文化芸術戦略顧問・南條史生

問 文化国際課　TEL027-898-6516

本コラムは「街づくりとアート」をテーマに、市文化芸術戦略顧問でアーツ前橋特別館長の南條史生が3回にわたり連載します。

アートが街づくりに関わるパターンとしては、大きく3つに分類されるのではないかと思っている。それは❶パブリックアート❷芸術祭❸美術館である。

前橋の事例で考えてみると、川沿いにある岡本太郎の鐘楼（しょうろう）は、代表的なパブリックアートの事例だろう。公共空間のアートが増えれば、外からの訪問者にとっても、街のイメージは文化的に豊かになる。アートが増えて、最後に街が美術館になるというのは理想だろう。建築もこれに準じていて、著名な建築家の建築物は、多くの人々の鑑賞対象となっている。

地域芸術祭は、集中的に多数の観客を動員することができるイベントだ。日本国内には、地域芸術祭が目白押しで、しのぎを削っている。横浜や愛知のトリエンナーレ（3年に一回という意味の呼称）は億の単位の予算で開催されている。一方で私が実行委員会会長を務める、山梨県富士吉田市のFUJI TEXTILE WEEK 2025（第4回目）は、参加作家およそ30組と小ぶりの芸術祭である。小さいがほぼ全ての作品が市内に展示してあるため、歩いて見て回ることができる。また、展示場所は古い商業ビルや商店のため、シャッター街の再生にも貢献、コンセプトもユニークである。富士吉田には繊維産業の機屋さんが多数存在し、テキスタイル生産が地場産業のため、毎回これをテーマにキュレーションされている。その結果、作品制作、展示には生産者も参加して、産学協働的な広がりと深さを持っている。（❸の美術館については次号で説明することにしたい）前橋も今年は地域芸術祭を開催する予定だ。ぜひ、その成果を期待したい。

時日時　場場所　対対象　¥費用　持持ち物　申申し込み　問問い合わせ